

平成29年度 全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査結果の分析について

平成29年4月18日に中学1・2年生を対象に「佐賀県学習状況調査」、中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。関係教科及び学習・生活に関する調査結果を分析し、改善に向けた取り組み事項をお知らせします。今後、さらに生徒の学力向上を図っていきたく考えています。

1. 1年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は「おおむね達成」の領域に到達しているものの、すべての観点において県平均をやや下回っている。「書く」「読む」は「要努力」の範囲にとどまっており、特に「書く」の活用に関する記述式の問題での正答率が県平均を大きく下回っており、無回答率も高かった。目的や意図に応じて図を基に自分の考えを書くことや、文章の内容をふまえ、様式にあわせてまとめることを苦手とする傾向が見られた。意識調査においては「読書が好きだ」の割合が県平均を下回り、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」を合わせて67.4%にとどまっていた。	「書く」では、資料を生かして理由や根拠を明確にししながら自分の考えを書く機会を増やしていきたい。その際に、「相手に分かりやすく表現すること」や「正しく表現すること」を意識させる。また、問題文が求めていることをきちんと分析して、条件に即して答える練習が必要である。「読む」では、説明文の文章を扱う際に、段落ごとの関連や全体の論理の構成を意識しながら読むことや、接続詞に着目して形式段落のつながりを考える学習や、段落ごとに要約をすることで全体の流れをつかむ学習を授業の中に取り入れていく。読書については、本の紹介や図書室を活用した授業を計画的に取り入れ、本に親しむ態度を育成していきたい。
数学	全体の正答率は県平均をやや下回ったが、おおむね達成の基準には到達していた。領域別でもすべての領域でおおむね達成の基準に到達している。しかし出題形式を見ると、記述式の正答率が低く、また「活用」に関する問題の正答率は県平均を大きく下回っており、考えたり、説明したりする趣旨の問題の正答率が低い。意識調査においては、「数学の勉強は好きだ」「数学の授業の内容はよくわかる」と答えた生徒は県平均を上回ったが、「公式やきまりを習うときに、その根拠を理解しようとしている」と答えた生徒は県平均を下回った。	全体として県平均を下回っているため、授業では小学校の復習を行いながら、これまでの学習内容とのつながりを大切にする。また、授業のはじめに行う小テストや週末のワーク課題を活用し、学習内容の定着や繰り返し学習を行う。授業の中では、自分で考え、友達に考えを説明する学び合い活動を取り入れる。また、ITの授業を実施する中で、個に応じた丁寧な指導を行う。

2. 2年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は県平均をやや下回り、観点別では「話す・聞く」「読む」「知識・理解・技能」は「おおむね達成」の範囲内に収まっているものの、「書く」は「要努力」レベルにとどまり、県平均を下回っている。意識調査でも「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」は県平均より下回っており、集中して文章を読んで、話したり、書いたりすることを苦手としている傾向が見られる。また、「段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる」という意識は県平均より下回っており、文章の組み立てや構成をつかむという意識が不足していると思われる。	一年時の調査からの変化を見ると、「読む」の正答率が「おおむね達成」の範囲内ではあるものの、県の正答率より大きく下回っており、「書く」とともに低い状況である。これは長い文章をじっくり時間をかけて読んだり、自分の考えたことを文章にして書き表すという練習に十分取り組めていないことが考えられる。説明文などの論理的な構成の文章を授業でも学ぶ機会が増えてきたため、論理をつかみ取れないことや語彙力の不足などの理由から苦手意識が増加しているためかと思われる。したがって、段落ごとの関連や全体の文章構成を考えながら読む学習、段落ごとに要約をして全体の流れをつかむ学習を特に授業に取り入れ、論理的構成の文章を読んだり書いたりすることに対する練習を重ねていきたい。
数学	全体の正答率が、県平均を大きく下回る結果となった。領域別でも全領域について下回っており、特に関数の落ち込みが大きい。観点別に見ても、全観点で下回っており、特に技能の落ち込みが大きい。また、問題形式別でもすべての形式で下回っているが、選択式より記述式のマイナス幅が小さい。	全領域、全観点で県平均を下回っているため、「わかる」ことを学習意欲につなげるよう授業を計画する。そのために小学校や中学1年で学習した内容を復習しながら、スモールステップで授業を組み立て、「自ら学ぶ」という姿勢を身につけるよう指導していきたい。

3. 3年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は、県平均をやや下回るものの「おおむね達成」のレベルに到達している。「知識・理解・技能」が「十分達成」に近く、その中で漢字の読み書きについては、県の正答率に一番近い状況である。昨年度(2年時)要努力レベルだった「読む」の正答率が、「おおむね達成」レベルに近づいた。意識調査では、「意見発表でうまく伝わるように話の組み立てを工夫している」「考えの理由が分かるように気をつけて書いている」で県平均より若干下回っている。	漢字の読み書きは、継続して漢字練習に取り組み、小テストで定着を図っている成果であると考えられる。「読む」の正答率が上がったのは、論理的構成の文章を段落ごとの関連や全体の構成を意識しながら読み、段落ごとに要約し全体の流れをつかむ学習を授業に取り入れたため、今後も説明文などの論理的な文章を読んだり、書いたりすることで読みを深めていきたい。また高校入試への対策も含めて、意見発表の際の話の組み立ての工夫につなげたり、考えの理由が分かるように構成を意識した文章を書くことにもつなげていけるように、授業の中で短作文に取り組んでいきたい。
数学	全体の正答率は、県平均をやや下回る結果となった。内容・領域別においては、「図形」では県平均をやや上回ることができたが、「関数」「資料の活用」は到達基準の「おおむね達成」にも届かなかった。また、多くの項目で、無解答率が県平均よりも高いという結果でもあった。しかし、正答率の県平均との差は縮まってきており、「十分達成」に対する割合も高まってきている状況である。	全体として県平均を下回っているため、まずは数学の基礎力となる「技能」の向上のため、授業においてはチームティーチングでの指導を行い、個に応じた指導を行っていく。過去の学習内容については、問題集やプリント等を用い、週末を中心に復習を行い、学習内容の確認・定着を図っていく。また、無解答率を低くするために、学び合う活動を実践し、個人の考えを書いたり、話したりするなどの表現ができるようにしていく。